

Steel 鉄の点景 Landscape

ランタン

キャンプの夜にはランタンの灯火がよく似合う。漆黒の闇の中、友や家族が語り合う会話を、ランタンの灯火がやさしく包み込む光景は、実に平和に満ちている。

ランタンとは、もともと手さげ石油ランプのことで、電気やガスのない時代の灯りを得る道具である。最近では、キャンプなどアウトドアで利用される灯りをランタンと呼んでいる。ここでは小さなランタンに秘められた歴史を中心に紹介する。

燃料によって区別されるランタンの種類

ランタンの種類は使用する燃料によって異なり、ガス型、ガソリン型、灯油型、電池型等に分類される。このうちガス型、ガソリン型、灯油型は、燃料を気化、燃焼させてマントル（発光体）が発光する仕組みになっている。マントルとは袋状にした繊維に、熱に反応して発光する特殊な薬品を塗ったもので、から焼きを行って灰状にすることで発光する。

ランタンの構造はいたって単純である。本体下部に据え付けられた燃料タンク内で圧縮された燃料がジェネレーター（燃料を気化させる管）を通り、マントル内で燃焼する。マントルを保護する部品はグローブと呼ばれ、ガラス製のグローブが一般的であるが、ステンレスメッシュ製のものもある。ランタン上部を保護する部品はベンチレーターと呼ばれる天井部分で、この部位は様々な形状の製品がみられる。材質としてはステンレス、真鍮、アルミニウムなどが使用されている。

ランタンは屋外で使用する頻度が高いため、錆に強いことや丈夫で軽量であることが要求される。ランタン本体の材料には、さらに加工の容易さが求められ、ステンレスや真鍮、アルミニウム、プラスチックなどが、これらの条件を満たす素材として使用されている。

■一般的なランタンの構造図



「真夜中の太陽」アーク・ランタンの誕生

ランタンの先駆者W.C.コールマンが活躍したのは1900年代初頭である。当時のアメリカの都市部に電化の波が押し寄せていた時代であり、ランタン販売の彼のビジネスにとってはあきらかに逆風の時だった。しかし農村部への電化普及はほど遠く、当時の農村部の家庭にとって、ガソリンランプは欠かせないものだった時代背景を根拠に、彼はランタンの需要が必ず伸びるという確信を持っていた。そして薄暗い灯油ランプが主流であった当時、彼はついに「コールマン・アーク・ランタン」を誕生させた。1914年のことである。

アーク・ランタンの最大の特徴は、その明るさだった。夜中でも、家畜小屋の四隅は明々と照らし出され、当時の人々からは「真夜中の太陽」と絶賛された。こうしてコールマン・ランタンの出現は農夫や牧場主達の稼働時間を増やし、生産性を著しく向上させ、アメリカの農村生活を一変させたのである。また、アーク・ランタンが発売された1914年は第1次世界大戦が勃発した年でもあり、アメリカ政府の最重要物資にも指定され、4年間に100万個以上のランタンが生産された。

コールマンのランタンの明るさを証明する逸話として、アメリカで最初に行われたフットボールのナイトゲームでこのランプが使用され、サイドラインに沿って立てられた柱にランプを多数吊り下げたという話が伝えられている。



1914年に作られたマントル式のアーク・ランタン（コールマン）。「真夜中の太陽」と絶賛されるほどの明るさが特徴だった。



板金加工により鉄の素朴さをうまく取り入れたランタン（東南アジア）



灯油式ランタン（ペトロマックス）



高級ブランドとして知られるゲニオールの灯油式ランタン

多彩なデザインを競う各国のランタン

構造が単純であるが故に、ランタンはブランドや種類によって様々なデザインを見ることができる。

コールマンに並ぶ老舗的なランタンとして、世界で初めて灯油ランタンを発明したドイツのペトロマックスブランドがあげられる。1917年に開発された圧力式灯油ランタンが代表的であり、このブランドの特徴は生まれながら完成品に近く、当時からほとんどモデルチェンジをせずに美しいデザインと機能性を保持していることだ。また、ドイツ・ゲニオールのランタン（灯油式）も世界中に根強い愛好者を持っている。一般大衆向けであったペトロマックスに対して、ゲニオールは高級ブランドとしてスタートしたという歴史がある。

一方アジアに目を向けると、東南アジアや中近東では鉄の素朴さをうまく表現した鉄製ランタンが昔から作られている。これらは実用品というよりはむしろ民芸品的な意味合いが強く、インテリア用品として人気を集めている。

これからの季節、キャンプ場などでランタンの光を目にする機会が増えてくるだろう。小さな灯りに秘められた歴史や異文化の佇まいは、その光を通して私たちに何かを語りかけてくるかも知れない。その灯りの骨組みを支え続けてきた「鉄」のつづきにも、ぜひ耳を傾けて欲しいものだ。

- 取材協力 コールマンジャパン(株)、(株)スター商事、新洋電気(株)
- 取材・文 藤井美穂